

平成29年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(特別支援教育の視点を踏まえた学校経営構築研究開発事業)
成果報告書

実施機関名 (関西金光学園)

1. テーマ

特別支援教育の視点を教育活動のベースにした学校体制の構築
～My Revolution・教員の意識改革でユニバーサルデザインの実践を～

2. 問題意識・提案背景

《生徒・家庭の実態》

1. 家庭や成育歴等に課題を抱えている生徒が多い
2. 自尊感情の低い、居場所感がない生徒が多い
3. 発達に課題を抱える生徒や不登校傾向の生徒が多い
4. 孤立傾向の保護者が多い (子育てに関する相談相手の不在)

《本校の教員の実態》

1. 各教員が様々な取組を行っているが、同じ学年や交流の多い教員グループの中だけで共有されているため、全体の共通理解に乏しい
2. 各教員が自分の信念や理論をもっているが、それがユニバーサルデザインかどうかは見直す必要がある

3. 目的・目標

本校の実態と課題から、特別支援教育の視点を教育活動のベースにした学校体制の構築が必要だと考えた

1. 教員一人ひとりの意識が変わることで、全生徒への合理的な配慮をベースとした質の高い教育活動の展開を目指す

《教員の意識改革》

2. 組織としての意識にも変化をもたらし、「面倒見の良い熱心な先生がいる学校」から、「面倒見のよい熱心な学校」へと成長する

《学校体制の構築》

4. 主な成果

生徒に対する成果 (家庭や成育歴等に課題、自尊感情が低い、居場所感がない、発達に課題を抱えている、不登校傾向)

↓
コンサルテーション

発達障害に関する教職員の理解啓発・専門性向上と個別の教育支援計画・個別の指導計画作成・運用に向けて、専門家(大学教授1人)によるコンサルテーションを行った。その結果、生徒の実態把握ができ、教員の意識改革につながってきている

COCORO カフェの活動

- ・生徒に弱音や悩みを話せる大人の存在を身近に感じてもらうこと
- ・「心の居場所」をキーワードに、つまずきや悩みを抱えている生徒の支援を早期の段階で行うこと

以上のような目的を掲げ、週2回、生徒たちの居場所づくりとしてのカフェ活動を行っている。不登校傾向の生徒や、コミュニケーションをとることが苦手な生徒が多く利用している。スタッフの奈良女子大の大学院生による自尊感情を高めるようなワークなども取り入れている。今後、居場所づくり以上の成果を期待している

保護者に対する成果 (孤立傾向の保護者が多い、子育てに関する相談相手の不在)

↓
COCORO 食堂の活動

- ・学校と家庭の関係を“切らない・育む・深める”こと
- ・学校生活を送るうえでサポートが必要な保護者同士が交流を深めるなかで、保護者自身の孤独感を減らすこと
- ・保護者と教員の交流を通して、家庭と学校が連携し、生徒のサポート関係を構築すること

以上のような目的を掲げ、平成29年度は4回実施している。今後もアンケートを実施したり、聞き取りをしたりして、保護者の要望に応えられるよう活動の幅を広げていきたい

教員に対する成果

↓
コンサルテーション

研修会

啓発活動(事業便り発行)

それぞれの教員の意識改革につながっている

5. 教育委員会及び指定校における取組概要

① 専門家を活用した学校経営計画等の策定

本校は追加募集での事業参入のため、学校経営計画等については、専門家（学校経営スーパーバイザー）である学校長の意見等を中心に策定し、平成30年4月の職員会議で教職員に提示

② 合理的配慮の提供に係る体制整備の在り方

取組

コンサルテーション

目的：生徒一人ひとりのニーズに応じた支援

方法：実態把握

- ・行動観察による実態把握⇒授業見学
- ・情報収集による実態把握⇒対象生徒一覧表

《対象生徒一覧表》様式

組	番	名前	性別	担任	診断名	配慮事項	手帳取得の有無	備考	個別の教育支援計画	
					機関				中学から引き継ぎ	高校での作成
					広汎性発達障害				○	○
					医療機関					
					知的障害 LD					○
					知的障害			支援学級在籍		○

成果

- ・合理的配慮の視点…学校としての合理的配慮のまとめが必要
 - ・板書（色使い）←全体
 - ・授業プリント（工夫）←全体・個別
- ・支援を必要とする生徒のカテゴリー分類
 - 学習面・行動面・対人面
 - ※診断名にとらわれない実態把握が必要

コンサルテーションを行うことによって授業担当者・担任に対象生徒を意識してみてもらえたことは、この事業の目的達成に一步近づいたといえること。今後、担当生徒の実態把握をしていくうえでの気づきとなった

コンサルテーションをきっかけに、対象生徒にかかわる教員と須田教授で研修会を発足。（平成30年1月実施）→学校経営構築研究開発事業運営協議会主催

《事例》

全教職員を対象に日頃の取組に関するアンケートを実施した
それをグルーピングし、以下のようにまとめた

ワーク①



自他の取組を視覚的に認識することで、さまざまな発見があった
次に、視覚的認識から構造的認識へ発展させるワークを行った

どの生徒も安心して実力を発揮できる学校へ

～「できない！」なんて言わせない！！～

生徒との関わり方

授業の工夫

安心できる環境づくり

生徒の有能感を高める

生徒の共生力を高める

構成の工夫

評価の工夫

ツールの工夫

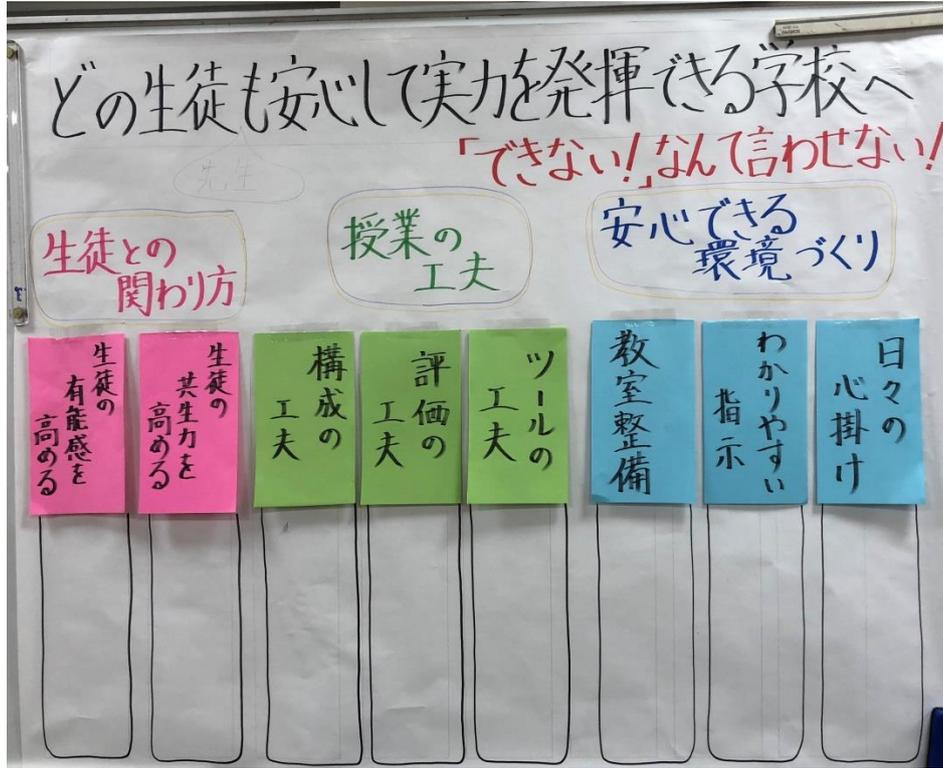
教室整備

わかりやすい指示

常に心掛けたいこと

上記の空欄に、具体的な取組を入れていくというワークを実施することで、
自他の取組を客観的に理解し、新たな取組につなげる。また共通した合理的配慮を
もとに、学校としてユニバーサルデザインを意識した授業を展開

ワーク②



- ③ 発達障害等の可能性のある幼児児童生徒を取り巻くいじめの防止、不登校対策等の生徒の学校課題に対する体制整備の在り方

取組

COCORO カフェ

内容及び特色

- ① 週2回放課後にオープン 16:00～17:30
- ② 臨床心理士・公認心理士を目指し学んでいる大学院生による運営
- ③ スクールカウンセラーがスーパーバイザーとして参加
- ④ COCORO の部屋（カウンセリング）と連携
- ⑤ おしゃべり（集団・個別）、集団ワーク、相談、特別活動など生徒の様子に応じたメニューを学生スタッフが提供する
- ⑥ カフェ終了後に、学生スタッフと担当教員で情報交換を行う

活動実績・成果

オープン回数：37回 来室者総数：253名（H29.4月～11月）
カフェの活動が、文化祭・オープンスクール等へと幅が広がっている

COCORO 食堂

内容及び特色

- ① 2か月に1回、土曜日の午後に開催
- ② スクールカウンセラーも参加
- ③ 横と縦のつながりを大切にする
- ④ 体験活動と茶話会の2本柱
例) 調理実習、フラワーアレンジメント、心理検査、コラージュ、集団ワークなど

活動実績・成果

29年度は4回実施（平成30年2月実施予定）
参加者約90名

平成29年度は最初のCOCORO食堂から第1学年の保護者の参加割合が高かった。また、生徒向けの校内カフェであるCOCOROカフェにおいても年度当初から第1学年の生徒の利用割合が高い。COCORO食堂とCOCOROカフェの利用状況から平成29年度の第1学年の生徒のなかに学校生活を送る上で何らかの課題を持つ者が多いことが予想される

COCORO食堂への参加回数からも継続的なつながりを持ちたいと希望する保護者の存在が見えてくる

② 特別支援教育コーディネーターの活動状況

- ・人数 2人
- ・1名—教頭補佐・教育支援部長→校内支援委員会の招集・運営、学校長・外部専門家との連絡窓口、生徒相談、保護者相談、教員相談
- 1名—養護教諭・教育支援部副部長→スクールカウンセラーとの連絡窓口、カウンセリングの窓口、学生スタッフとの連絡窓口、生徒相談、保護者相談、教員相談
- ・特別支援教育コーディネーターとしての軽減はないが、部長職、管理職としての授業軽減あり。養護教諭は軽減なし
- ・特別支援教育コーディネーターとして職務に従事している時間数は、不明
日々の業務の中で、重なり合ってコーディネーターとしての仕事がある
- ・特別支援教育コーディネーターの人選方法は、本校の場合校長による指名である
生徒の教育相談等の任務を長年経験し、カウンセリング研修等の生徒にかかわる様々な研修会に参加し、経験と教養等を身に着けているものが望ましい
- ・1名—教頭補佐・教育支援部長（任期は不明）
- 1名—養護教諭・教育支援部副部長（任期は不明）

6. 今後の課題と対応

・コンサルテーションを通して、課題のある生徒の実態把握を具体的にできたが、そこから個々へのきめ細やかな対応を、個人レベルでなく学校体制としてどのようにとっていくのかが今後の課題となっている。また、研修会や個々の実践の共有を介してチームの人数を増やし、取組の幅を広げていこうと考えている

・COCORO 食堂参加者へのアンケートで、参加理由から、保護者一人ひとりが持っている悩みや課題が見えてきた

★第1位「子育てのヒントがほしかったから」

★第2位「保護者仲間がほしかったから」、「学校の情報が聞けると思ったから」

上記の理由からも孤独感を感じている保護者の姿が浮かんできた。COCORO 食堂の目的の一つである『保護者同士が交流を深めるなかで、保護者自身の孤独感を減らすため』が、本校保護者の実態とそのニーズにふさわしいものとなっていると言える。

COCORO 食堂に参加する保護者は自分で解決したいと動く意思がある人たちである。しかし、まだまだ多くの保護者は子育てに孤独感を感じていても動けずにいる。参加のハードルを下げ、参加者のすそ野を広げていくことが今後の課題であると考えられる。またスクールカウンセラーが「アンケートから、保護者のニーズの高さを反映していると読み取ることができた。発達のなしんどさを持つ子供を抱える保護者が、抵抗なく子供の話ができる雰囲気があり、ピア・サポート的な効果も大きいと感じた。今後は保護者のニーズに合ったものを企画しつつ、潜在的なニーズにも対応していけるような工夫が必要になると思う。」と考察された

・教員に関しては、今、テーマ「My Revolution～教員の意識改革～」を目指し、動き始めたばかりであるが、全教員の意識改革のために、今個人としてそれぞれの教員が実践していることを、全体で共有していけるようにしている。さまざまな取組や実践を合理的配慮の視点から検証し、学校全体としての取組としていければと考えている。特別支援教育の視点を踏まえた教育活動を、強く意識しなくても一人ひとりが展開していくことができるようになれば、それがこの事業の大きな成果だと言えるのではないかと。本当に大切なものは、目に見えにくいものだが、平成30年度は何らかの足跡を残していきたい。

7. 指定校について

(高等学校)

指定校名：													
指定校名：関西福祉大学金光藤蔭高等学校													
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
課程	学科				生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
全日制	普通科				297	10	257	9	253	9			
	校長	教頭	教頭補佐	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	2	2	4	4	1		20	9		1	18	98

※特別支援教育コーディネーターの配置人数：2人

8. 問い合わせ先

組織名：関西福祉大学金光藤蔭高等学校

- (1) 担当部署 学校経営構築研究開発事業運営協議会
- (2) 所在地 大阪市生野区小路東4-1-26
- (3) 電話番号 06-6751-2461
- (4) FAX番号 06-6751-2470
- (5) メールアドレス wada@konkoutouin.ed.jp